
東北大学陸上競技部

OB・OG通信

2017年No. 4 (2017. 8)

・ 第68回全国七大学対校陸上競技大会

兼第28回全国七大学対校女子陸上競技大会(パロマ瑞穂スタジアム)

…男子総合4位、女子総合初優勝！！！！

…女子4×100mR 中村(3)-佐貫(2)-吉村(4)-佐々木(3)が48” 57の大会記録・部記録を樹立し、優勝！

…佐貫(2)が女子100mで12” 30、400mで57” 08、の大会記録・部記録を樹立し、二冠、二連覇を達成！

…楠(3)が男子砲丸投、円盤投で二冠、三連覇を達成！

…川口(3)が男子800mで優勝！

…上條(2)が女子800mで2’ 13” 65の大会記録・部記録を樹立！

…中村(3)が女子走高跳で1m58の部記録を樹立！

・ 第56回秋田陸上競技選手権大会で佐貫(2)が200mで25” 40の部記録を樹立！

・ 第68回全国七大学対抗陸上競技大会

兼第28回全国七大学対抗女子陸上競技大会

2～15ページ

・ 宮城県陸上競技選手権大会ほか

15～16ページ

・ 自己記録更新者一覧

16ページ

・ 今後の予定

16ページ

・ 編集後記

16ページ

残暑厳しき折、会員の皆様にはますますご発展のほどお喜び申し上げます。

今号では、7月29~30日に行われました第68回全国七大学陸上競技大会兼第28回全国七大学女子陸上競技大会の結果をお伝え致します。

◎第68回全国七大学陸上競技大会兼第28回全国七大学女子陸上競技大会(7/29~30)

・・パロマ瑞穂スタジアム(名古屋)・・

二日間、厳しい暑さのなか七大会が行われました。男子は昨年より順位を1つ上げて4位、女子は昨年の雪辱を果たし、初優勝を飾ることが出来ました。女子の4×100mR、100m、400m、800mで部記録並びに大会記録が樹立され、女子走高跳でも部記録が樹立されました。また、女子100m・400mで佐貫(2)、男子砲丸投・円盤投で楠(3)がそれぞれ二冠、連覇を達成するなど、東北大選手の活躍が目立ちました。主将・女子主将の挨拶と対校戦各選手の様子を紹介します。

・男子総合結果

順位	大学	得点
1位	名古屋大学	96.5点
2位	大阪大学	84点
3位	京都大学	71.5点
4位	東北大学	64.5点 (T:32点(4) F:32.5点(3))
5位	北海道大学	44点
6位	東京大学	34.5点
7位	九州大学	25点

・女子総合結果

順位	大学	得点
1位	東北大学	19点 (T:16点(1) F:3点(6))
2位	大阪大学	19点
3位	東京大学	16点
4位	京都大学	10点
5位	名古屋大学	9点
6位	北海道大学	5点
7位	九州大学	2点

●主将、女子主将より

～主将挨拶～

チームとして目標としていた7大会が終わりました。結果としては、男子4位、女子は悲願の初優勝という結果に終わりました。

男子に関しては昨年より一つ順位を上げることができ、また得点も64.5点と昨年より12.5点あげることが出来ました。得点、順位共にあげることが出来ましたが、得点の取りこぼしなどがあり、もう少し点数を取ることができ、順位も3位までは狙えたと思います。また、東北大学は各種目二番手になる選手が少なく一つの種目で大量得点出来ないのが他大学と比較したときの弱点だったと考えられます。来年は他大学の主力が抜け戦力が落ちると分析されますが、東北大学は戦力が落ちません。来年は東北大学の優勝は十分あると思います。後輩たちが来年リベンジしてくれると思います。

最後に、OB・OGの皆様、暑い中お越し頂き、そして多大なる応援ありがとうございました。これからも部員一同頑張りますので、今後ともよろしくお願いします。

東北大学学友会陸上競技部 前主将 藤井佳祐

～女子主将挨拶～

女子主将を務めさせていただいた、吉村梢です。先日行われた七大戦では、ひとりひとりが力を発揮することができ、多くのPB・UB、5種目で部記録、4種目で大会記録を更新することができました。そして、1年間目標としてきた女子総合優勝を果たしました。

4年前は同点で優勝を逃し、2位。去年は0.5点差での2位と、東北大学は七大戦で悔しい思いをしてきました。4年前の七大戦に参加した部員は現在、学部生ではありませんが、先輩方から当時の話は聞いていました。また、2年生以上の部員は去年の2位での悔しい思いを経験しており、それらの思いがこの1年間大きな原動力となりました。今回の優勝は現部員だけでなく、過去に優勝を目指した先輩方の努力が積み重なって勝ち取ったものだと思っています。

今年の対校戦での主力メンバーは3年生以下が多数を占めており、来年の七大戦での活躍が期待できます。また、今回は点を獲得できなかった種目でも、七大戦の大舞台で大幅にPB・UBを更新し、得点ラインが見えてきたことも今年の七大戦の大きな収穫です。今のチームは優勝する喜びを知り、さらに上を目指せるチームとなりました。今回の優勝に満足することなく、新女子主将の中村を中心として、個人としても、チームとしても、まだまだ強くなれると思います。そして、今回果たすことができなかった、男女優勝を果たしてもらいたいです。

最後になりましたが、大会期間中に限らず、常日頃からOB・OGの皆様には多大なご支援を頂きました。この1年間、私の力不足で多くの問題を起こしてしまい、多大なご迷惑をお掛け致しましたが、先生方をはじめOB・OGの皆様の存在が大きな支えとなりました。大会初日のOP戦では選手としてチームを勢いづけ、対校戦ではスタンドから大きな声援を送ってくださり、七大戦を共に盛り上げてくださいました。今回の優勝をOB・OGの皆様と共に喜び合えたことに感謝しております。本当にありがとうございました。これからも変わらぬご支援、応援をよろしくお願い致します。

東北大学陸上競技部 前女子主将 吉村梢

女子の優勝は東北大学のWEBサイトにて紹介されました。

第56回七大戦で学友会陸上競技部女子が優勝しました

2017年8月2日 14:00 | ニュース

<https://www.tohoku.ac.jp/japanese/2017/08/news20170802-02.html>

●七大会各競技を振り返って

☆トラック

男子 100m 予選

1組 3着 芦田周平(1) 11"01(+0.8)

スタートは及第点。その後60mまで加速したところで前方に2人いることに気づき動きが硬くなる。スムーズに進むことができなくなり3着でフィニッシュ。

2組 3着 大衡竜太(4) 10"98(+1.1)

スタートで出遅れ、焦ったか体が早々に起き上がってしまう。しかし2次加速でグイグイと加速。2着と0.01秒差で3着に終わり念願の10秒台も予選落ちに終わる。

3組 1着 藤井佳祐(4) 10"67(+0.9)

スタートは出遅れてしまったが、一時加速で追い上げて50m地点で首位に立つ。後半は力んでしまい、バラけた走りをしたが自己ベストとなる10.67で1着。

男子 100m 決勝

2位 藤井佳祐(4) 10"72(+0.1)

スタートはうまく行き50m付近までは首位をキープ。しかし、後半疲れが見え減速してしまう。また抜かれた瞬間に意識したのか力みが入りバラバラとなりゴール。優勝が狙えただけに悔しい結果となった。

女子 100m 予選

1組 1着 佐貫有彩(2) 12"52(+0.8)

スタートがうまく決まる。50m付近でトップに立ち、スピードを落とさず1着でゴール。

2組 2着 佐々木千肅(3) 12"67(+0.3)

スタートで少し出遅れたかに見えたが、中盤の加速で一気に先頭争いへ。後半はテンポの良い走りでスピードを維持し、僅差の2着でゴール。

女子 100m 決勝

1位 佐貫有彩(2) 12"30(+1.0) GR 部記録

スタートでやや出遅れる。中盤から一気に加速していき、60m付近でトップに立つ。そのまま1着でゴール。

3位 佐々木千肅(3) 12"52(+1.0)部記録

スタートの反応は良かったが序盤で少し遅れを取る。後半の競り合いの中、脅威の伸びを見せ選手を一人捉えて3着でゴール。



▲女子 100m 決勝

男子 200m 予選

1組 2着 白鳥海知(3) 22"04(0.0)

反応よくスタートが決まり、50m付近で早くも前の選手をとらえる。コーナーは内側をスムーズに抜け、後半はストライドの大きな走りで最後は少しブレが見られたが2着でゴールし決勝進出を決める。

2組 3着 大衡竜太(4) 22"18(-0.5)

スタートから今までに見たことがないほど飛ばす。カーブを抜けてからも減速せず、最後の30m程こそ苦しそうな走りではあったがなんとか3着。タイムで拾われ決勝に進出する。

3組 7着 堀越涼(3) 22"72(-0.4)

低い姿勢からスタートしたが、やや遅れを取る。コーナーを開けたところで先頭とは5メートル程の差があったが、後半は大きく伸びのある走りを見せ7着でゴール。

男子 200m 決勝

6位 白鳥海知(3) 22"25(0.0)

8レーンからスタート。勢いよく飛び出したが、徐々に内側からくる選手たちに後れを取る。直線に入るところでは7番手争いをしてきたが、後半の競り合いを制し6着でゴール。対校得点を1点獲得した。

8位 大衡竜太(4) 22"27(0.0)

予選の通り序盤から飛ばす。カーブを抜けてから少し力んでしまったか硬い走りとなった。最後まで4本目の疲れが出たか体が動いておらず8着に終わる。

男子 400m 予選

1組 2着 水戸部慶彦(4) 48"62

前半は落ち着いたスタート。バックストレートに入り加速しトップに立つ。200mを過ぎ少し減速してしまい内側の選手に先行を許す。ラストの直線に入り外側の選手と2番手争いをする中、内側の選手をゴール直前でとらえ2着でフィニッシュ。

2組 5着 岩波発彦(3) 51"14

前半からピッチを飛ばし150m付近で内側の選手に並ばれるが、必死に食らいつきコーナーへ入る。最終コーナーが明ける手前で内側の2選手に前に出られ少し動きが硬くなる。最後の直線は疲れが見られ前の選手に差を広げられ5着でゴール。

3組 4着 井戸端佑樹(1) 51"00

8レーンということで見ることができない状況の中で前半は普段以上にスピードにのって走ることが出来た。ただフォームの面で無駄な動きが多く後半にその影響が大きく出た。今後の課題は無理せずに高いスピードを出せるように、トップスピードを上げること。

男子 400m 決勝

4位 水戸部慶彦(4) 48"67

前半は一步一步を踏みしめるように大きく走り抜ける。200mを過ぎたあたりでは前の2選手に少し遅れを取り3番手で通過。最終コーナーの途中から加速し前を必死に追うが、リードしていた選手との競り合いに敗れ4着でゴール。



▲4位入賞した水戸部(4)

女子 400m 予選

1組 7着 柄澤菜々美(1) 1'08"46

自身初の400m、調整は上手くいったとは言え1ヶ月間の練習不足を恐れたか前半から抑え気味で入り後半完全に置いていかれて走力不足を痛感。悩ましき腰痛の解消、またスピードを得るためにもまだまだしっかりと基盤を作っていかなければならないだろう。

2組 1着 佐貫有彩(2) 58"92

スタートがうまく決まり、得意のバックストレートで一気に外の選手を抜かす。200~300mにかけてのコーナーをのびのびと走り、残りは流して1着でゴール。

女子 400m 決勝

1位 佐貫有彩(2) 57"08" GR部記録

4本目のレースのせい、スタートでやや遅れる。バックストレートで持ち直し、コーナーは前の選手について行き、ホームに入った段階でトップに立つ。ホームストレートで2位の選手を突き放し、1着でゴール。

男子 800m 予選

1組 5着 宇梶和希(2) 1'58"33

2レーンから様子見のスタート。ブレイク後外からポケットされ減速するが、300m地点で集団の外側に出て、400mを58秒で通過。その後加速するが順位を上げることができず、残り200mで先頭4人のスパートに追いつくことができずに5着でゴール。

2組 1着 川口航汰(3) 1'54"77

最初の200mは6番目に入った。400mを57"で通過してからスピードを上げ、500mで先頭に立つ。600mで2番手に順位を落とすも、ラスト100mで再び追い上げ1着でゴールした。

3組 2着 佐藤宏夢(3) 1'56"90

落ち着いたスタートをするがブレイク後に度々接触し、200mを最後尾で通過。その後外からポジションを上げ、400mを58"台の3番手で通過。その後ペースが上がる中で加速し、残り200m手前で先頭に立つ。最後の直線で1人にかわされるも、2着で決勝に進出した。



▲男子 800m 決勝

男子 800m 決勝

1位 川口航汰(3) 2'01"31

落ち着いた入りで200mは8番目に入った。その後かなりのスローペースの中、300m~400mの間に3番目まで位置を上げた。500m手前で先頭に出て、ペースを上げ、残り200mでさらに加速し、最後まで逃げ切り1着でゴールした。ラスト300は38"台の鋭いスパートであった。

4位 佐藤宏夢(3) 2'01"99

スタートでやや出遅れたかにみえたが、ブレイク後一気にスローとなり、200mを4番手で通過。その後2番手に上がる。400mは超スローの66"で通過。残り300mの川口のスパートに反応して一気にペースを上げるが、残り150mあたりから離される。残り20m付近から2人にかわされ、4着で

のゴールとなった。

女子 800m 決勝

3位 上條麻奈(2) 2'13"65 GR 部記録

序盤から中盤は前の選手につき、4人の先頭集団の中で走った。400mは3番手で64"。終盤、飛び出した東大の高石を追いかけ仕掛けるが、残り150m辺りで後続の選手に抜かれ4番手となる。しかし最後に転倒した選手を抜き、3着でゴール。3着でも大会新のハイレベルなレースであった。

7位 加藤ひより(1) 2'24"67

ハイペースでばらけた展開の中、前と少し離れた7番手で走る。1周目は7番手の69"で通過。600mで1人抜いたが、最後に僅かに競り負けてしまい、7着でゴールした。



▲大会記録、部記録を樹立した上條(2)

男子 1500m 決勝

5位 荒田啓輔(3) 3'57"64

15位 関 俊樹(4) 4'11"30

20位 松田将大(2) 4'16"17

荒田はスタートから先頭の2人の後ろにスムーズに着き、400mを63"で通過。関は集団の中ほどからスタートするがポジション争いに苦戦し後方に追いやられてしまう。松田は終始集団の中盤から後方につけてレースを運ぶ。500過ぎで先頭がペースアップするが、荒田は後ろからスピードを上げてきた走者についていきペースを保つ。800mは2'09。1000mから徐々にペースを上げ一時は3番手となる。関はなかなかポジションを上げられず1000mを通過する。

松田は 800m までは 400m あたり 66”付近で刻む。荒田は残り 100m で後ろから来た走者に僅かに競り勝てず、5 着でゴール。関は残り 300m からは苦しい走りとなり、4'11”でのゴール。松田は 3 周目以降は徐々にペースが落ちて最後尾付近となる苦しいレースとなった。

女子 3000m 決勝

9位 須田 桜(3) 10'42"91

11位 飯田夏生(3) 11'02"37

飯田はスタートから積極的に先頭につき、須田は集団後方からのスタート。ややハイペースであったか、1000m付近で飯田に疲れが見え始める。須田はペースを落とさず順位を上げていく。その後、須田は飯田を抜き、粘りを見せる。須田はラスト300mからのスパートが上手く決まり、UBを10秒ほど更新する好タイムでゴール。飯田は苦しい走りとなったが、大きく崩れることなく走り切った。

男子 5000m 決勝

8位 松浦崇之(2) 15'12"74

10位 酒井洋輔(3) 15'18"58

13位 笠間淳平(3) 15'34"11

スタート直後三人が先頭で飛び出す。東北大学の三人は先頭にはついていかず18人の3位集団でレースを進める。酒井が3位集団を引っ張るが1000m過ぎで集団後方に下がり松浦が3位集団を引っ張る展開に。3000m手前松浦が集団から抜け出そうと試みるが後ろを離すことがなかなかできない。笠間、酒井ともに3000m前で3位集団から離れてしまう。松浦は4000mまで3位集団を引っ張るが、ラスト1000mで集団がペースアップし、懸命についていこうとするが集団からこぼれてしまう。そのまま松浦は順位を上げられず8位でゴールし、笠間、酒井は集団から遅れてからは自分のペースを守って走り大崩れすることなく走りきった。

男子 110mH 予選

1組4着 勝井友樹(3) 15"35(+0.5)

前半の加速はうまくいくも、3,4台目でハードルにぶつけたことでロスがうまれる。後半はピッチが落ちやや失速する。9台目あたりまでは2位グループ横一線であったが、ラストで競り負ける。2,3位と僅差で4人中4位でフィニッシュ。

2組2着 工藤翼(4) 15"23(+1.0)

スタートから出遅れ先行されてしまうも後半の勢いがよく中間のインターバルも刻めていた。10台目を終えてからゴールまでの区間で前方の他大の選手をかわし無事に着順取りで決勝進出を果たした。

3組4着 羽根田佑真(2) 15"34 (+0.3)

スタート1台目で抜き足がぶつかり出端を挫かれたが、それでも左隣の名大に大差はつけられず、徐々に加速し、9台目まで3位につける。しかし勝負を急いだか、或いは一時間前に走った400mHの疲れが残っていたのか、10台目でリード足からハードルに衝突し、大きく体制を崩した。いまにも転びそうなのを堪えてなんとかゴールまで駆け抜けたが、10台目からゴールまでの間で京都大に抜かれ、4着でフィニッシュ。3着の京大の選手がプラスで決勝に拾われたことを考えると悔いの残るレースだが、それでも約0.2秒自己ベストのため、今後に期待できる。



▲110mH決勝に出場した工藤(4)

男子 110mH 決勝**7位 工藤 翼(4) 15"13 (+1.0)**

予選で出遅れた前半のアプローチの部分は修正できたものの中盤で体が浮いてしまった。他の選手にも序盤から遅れをとり食らいつくが7着。シーズンベストをマークするも得点には至らなかった。

男子 400mH 予選**1組3着 加地拓哉(1) 54"46**

予選では内側の2人に引っ張られ、いいリズムで8台目まで行けた。しかし、終盤失速しているのにも関わらず、無理に歩数を合わせようとリズムを崩してしまった。それでも結果的には北日のタイムを上回る3rdPBであった。

2組3着 羽根田佑真(2) 55"44

前半からひとつ外側の選手と横に並ぶほどスピードをだしていた。しかし、バックストレートでは15歩でつまりぎみになっていたため、そこからはあまりスピードがのっていないように見えた。それでも後半は安定した走りで、3位を維持したまま10台目を抜け、そのままフィニッシュ。自己ベストではあるものの、バックストレートでの走りに課題が残る試合となった。

3組6着 鈴木景(2) 56"14

前半200mはややスピードに乗れなかったものの、リラックスして走れた。6,7台目の歩数が合わず減速。ラストの110mは以前より粘り56秒14でフィニッシュ。

男子 400mH 決勝**8位 加地拓哉(1) 55"65**

決勝では1台目の足がやや合わず、また、全体的に足が動かず、二本走る体力の不足や、予選から決勝に向けてのリカバリーの不足を感じた。

男子 3000mSC 決勝**2位 立野佑太(2) 9'24"04****8位 木村秀(1) 9'42"00****13位 堀琢磨(2) 9'53"60**

スタート直後立野が1人先頭に飛び出し2位集団を突き放す。木村、堀はともに最初は集団の中で様子を見る。立野は一人先頭で2000mまでレースを進める。堀、木村は集団の後方ではあるが自分のペースで余裕をもってレースを進める。2000m過ぎ2位集団から2人が飛び出し、先頭の立野に追いつく。2位集団もラストスパートでばらけてきた。立野は3人で先頭争いをしラスト一周に突入するが、阪大の選手のラストスパートに対応できず、2位でゴール。堀、木村は集団の後方でラスト一周を迎え木村はラストスパートで盛り返し8位、堀はなかなか対応できず集団の後方でゴールした。

**▲障害を跳ぶ立野(2)****男子 5000mW 決勝****5位 寺島智春(1) 22'13"92****8位 及川一真(3) 22'40"06**

朝から降っていた雨が上がり、太陽は差していないものの気温27℃、湿度84%、風速0.6mというじめじめとした暑さのパロマ瑞穂スタジアム。12:30、男子5000mWがスタートした。1周した時点で、及川・寺島とも4位集団を歩いている。1000mの通過は及川・寺島ともに4'26"であった。4位集団は安定して4'30"/kmほどのペースで進んでいるが一人、二人と選手が離れていく。3000mを通過したあたりで4位集団のペースが上がった。寺島は集団についているが、及川はペースが上がらずじりじり

と離されていく。寺島は4位集団につき、ラスト1周地点で集団は2人になった。ここで、寺島はラストスパートをかけるが前の選手からは離されていく。それに遅れて及川は8位でラスト1周を通過する。寺島は5位、及川は8位でゴールした。

男子 4×100mR 決勝

7位 43"80

白鳥(3)-芦田(1)-大衡(4)-藤井佳(4)

1 走は白鳥、低い姿勢から徐々に加速しほぼ先頭で完璧なバトンパス。

2 走は芦田、少し力が入っていた様に見えるがトップ争いを続ける。後半やや差を詰められたがバトンパスはきれいに決まる。

3 走は大衡、内側の京大に抜かれてはしまったもののうまくコーナーを走り抜けバトンパスへ。しかしここでバトンパスが極端に詰まり、バトンを渡したところで接触し倒れ込んでしまう。

4 走は藤井佳、立ち上がった時には完全に他のチームに後れを取っていた。それでも最後まで走り抜き7着でゴール。

女子 4×100mR 決勝

1位 48"57 GR 部記録

中村(3)-佐貫(2)-吉村(4)-佐々木(3)

1 走の中村はスタートで若干出遅れたが、後半は内側に詰められることなく2走の佐貫にバトンパス。

佐貫はバトンで詰まり7レーンの阪大に詰められたが、加速後はどんどん差を広げた。

3 走の吉村へのバトンはスムーズにわたり、カーブ内側の阪大を寄せ付けず1位で4走へ繋いだ。

バトンパスは距離が遠く減速したが、4走の佐々木が後ろを大きく引き離す快走をし、部記録・大会記録をコンマ5秒ほど更新する記録で優勝した。

男子 4×400mR 決勝

2位 3'15"95

白鳥(3)-水戸部(4)-羽根田(2)-岩波(3)

1 走は白鳥、スタートから力強く大きな走りで先頭を走る。200m から300m にかけて少し差を締められたが、ラストの直線に入ったところでさらに加速し2番手付近でバトンパス。

2 走は水戸部、前半は落ち着いた入りであったがブレーク後はしっかり2番手をキープ。200m を過ぎて少し差を広げられたが、ラストの直線50m で一気に差を締め先頭とほぼ差のない2番手でバトンパス。

3 走は羽根田、前半はリラックスした走りで前の選手についていく。200m を過ぎコーナーに入るところで後ろから来たチームに追いつかれるが先行は許さないまま最後の直線へ。残り50m 付近でついに前に出て先頭に立つ。2番手とほぼ差のない形でバトンパス。

4 走は岩波、テンポよく走り始めバックストレートへ。150m 付近で後ろのチームに選考を許すが必死に食らいつく。最後の直線では差を広げられてしまったが、後続の追従は許さず2着でフィニッシュ。



▲先頭でバトンをもらう岩波(3)

☆フィールド

男子 走高跳 決勝

2位 山下一也(3) 2m04

190cmから試技を開始。190、195、198、201と、助走や踏切動作を確認しながら試技をし、全て1回でクリア。204は1回目、助走が乱れ踏切位置が近くなり、踏切で潰れ失敗。2回目も少し踏切位置が近かったがクリア。207は助走の開始位置を少し下げ試技を行った。1回目はかかとが触れてしまい失敗。2回目は体はかなり浮いたがピークがバーの手前であったためバーに触れ失敗。3回目も修正しきれず失敗した。今大会は試技による跳躍の差が大きかったため、失敗試技が出て、207もクリアすることができなかった。体は浮いていたため、勝負に勝つことや更に上の高さを越えていく必要を考えると、跳躍の形を安定させ、確実にベストの跳躍ができるようにしなければならない。

4位 田中祥平(4) 1m90

動画を見直すといつもより助走スピードが遅く、曲線助走はピッチを意識しすぎて重心が高い。重心が高いので最後2歩前で重心を無理矢理落とさなければならず、それが減速をさらに加速させている。内傾を深く重心を下げ、スピードを維持しながら踏み切る練習が足りなかったと思われる。

14位 大塚祐貴(4) 1m75

1m80の1回目を失敗してから、それまでの跳躍ができずに1m80を跳べなかった。試合中に細かい修正をする技術を持ち合わせておらず、また安定した跳躍をする技術もなかったのが1番の敗因と思われる。

女子 走高跳 決勝

2位 中村 真璃子(3) 1m58 部記録

145cmからスタート。145～155cmまで1回目でクリア。高さも出ていてピークも合っていた。158cmは2回目でクリアした。深い内傾を維持したまま踏み切れたのがよかった。161cmは1回目は跳べそうであったが、

残り2回は集中力の足りない、ダメな跳躍であった。今後、より高い高さを目指すのであれば150cmスタートにするなどの必要があると思う。少なくとも160cmは跳べそうなので今後の練習をより頑張りたい。

7位 泉屋咲月(1) 1m40

130cmからスタート。～140cmまで1回目でクリアしたが、全体的に動きが固い印象を受けた。大会の雰囲気にも飲まれてしまったことが一因と言えるだろう。踏切位置が近くなることと抜き足に重点を置いていたが、改善が見られなかった。145cmでは本数を重ねるごとに踏切位置が近くなってしまったので、大会の経験を積むことと共に今後の課題としてもらいたい。



▲部記録を更新した中村(3)の跳躍

男子 棒高跳 決勝

3位 高橋昇之(3) 4m50

4m40からスタート。1本目は流れた跳躍で×。2本目は大きな跳躍ができてクリア。続く4m50、なんとか3本目でクリア。この地点で3位以上が確定した。4m60は使っていた15.7-160が使いきれず失敗。2位の人と試技差で3位となった。

11位 赤星栄治(1) 3m60

公式練習から助走が安定していなかった。本番はツッコミまで行けたが幅が出ていなかった。棒を下ろす動作が遅いのと降ろす際に減速があったためである。加えて練習と比べて圧倒的にターンが出来なかった。恐らく初めて使うポールというのもあるが、

助走が安定せず助走に意識を持っていかれ、空中動作まで意識できなかったためと考えられる。全体的に安定していないために修正したい所を直せないという感じであった。

12位 藤井大輝(3) 3m40

左足首の痛みが治らないまま挑んだ試合であった。初めて使うポールで挑んだこともあり低めの300からスタート。しかし、足の痛みがある状態で跳べる本数が限られている中、記録を狙うなら320から始めるのが妥当であった。空中動作が完成しないまま臨んだ試合であったが、逆に伸び代があることを感じさせた。今後空中動作の練習になお一層励んでほしい。



▲棒高跳で3位入賞した高橋(3)

男子 走幅跳 決勝

8位 高橋昇之(3) 6m74(-0.1)

棒高跳が終わった直後に足合わせを行い、体は動いているようだった。1本目、わずかに足が出てファール。これが1番距離が出ていた跳躍だった。2本目、3本目は板を踏まず、7mにのせることができなかった。ギリギリでエイトに残ることができたが、そこから記録を伸ばせなかった。

15位 藤井佳祐(4) 6m44(-0.2)

100mでPBを出し調子が良いように思えたが100m3本走り終わり疲れとバネが無いように見えた。また、上に跳ぶような助走となり加速が出来ていなかった。タータンがいつもと違い上に跳んでしまったと考えられる。様々な競技場で練習をしてなかつ

たためと考えられる。今後このような悪い結果を出さないよう頑張ってもらいたい。

17位 相澤一樹(1) 6m12(+0.7)

一本目 6m12 : リラックスはできていたが、少しスピードが足りなかったうえ、踏切が潰れて全く高さが出ず、記録も良くなかった。

二本目 F : 一本目の反省を生かしてとにかくスピードを出した跳躍ができたが、8cm程度ファール。着地もまとまらなかった。

三本目 F : 二本目から助走距離を20cm程度伸ばしたが、今度は5cm程度ファール。助走、踏切、着地それぞれが上手くいっていただけに、もったいない跳躍となった。

女子 走幅跳 決勝

5位 吉村 梢(4) 5m33(+0.5)

1本目はファール。2本目は跳び出しが低く、着地で足を前に出すことができず、4m99。3本目はファール。走りの調子が良かった分、助走の距離が安定しなかった。全体の7位でエイトへ。4本目は踏切が板に乗らず、距離が伸びなかった。5本目はファール。最後の6本目で、ようやく練習してきた上方向への跳びができ、5m33。しかし4位に1cm及ばず、5位。悔しい結果となった。

9位 門脇郁(2) 4m78(-0.8)

1本目4m70。前傾した走りを意識したようだったが、中間助走が小さかった。2本目4m75。1本目を反省し動きを大きくしたが、力んだ走りになってしまった。3本目4m78。自己ベストであったが、前傾した走りができていない。全体的に前回よりも助走スピードが上がり、自己ベストが得られたことは大きな収穫であった。しかし、踏切位置がかなり遠い跳躍があったことが気になる。より走力の向上と安定した助走の感覚を身につけることが今後の大きな課題である。

男子 三段跳 決勝

11位 望月文太(3) 13m25(+0.5)

一本目F : 全体的にまとまった跳躍であったが爪先が少しでてFとなった。しかし、接地毎にブレーキがかかっており、高校時代の跳躍と比べるとホップに思いきりが足りないと感じた。

二本目13m25 : 一本目の反省を生かしホップを大きく跳び出すことができた。また、助走もこれまでの試合と比べると最初からしっかりと地面を押せていた。大学の試合では最も良い記録となった。しかしこれも接地の際にブレーキがかかっていた。

三本目F : 一本目と同様に爪先が少しでてFとなった。記録が残っていれば恐らくPBであった。

全体的にステップ・ジャンプをする毎にブレーキがかかるような接地になっていた。また、ホップの接地のタイミングが早い。

14位 松岡恭平(2) 12m73(-0.6)

この日はいつもより助走が安定しなかった。

1本目 12m73 : 練習通りの助走ができず板を踏まずに跳躍した。きちんと助走があっていれば13m跳べていただろう。

2本目 F : 詰まって砂場に届かなかった。

3本目 12m49 : 助走は上手くいったが、少し詰まっていたのか全体的に高さが出なかった。そのため記録は伸びなかった。

17位 鈴木輝彦(2) 12m23

1本目、2本目F。3本目12m23。

1本目が3本の中では最も跳べていたがわずかにファール。2本目は風向きが変わり助走が合わなかったことに加えポップを意識し過ぎたのか潰れてしまった。3本目も足は合わず無理やり合わせた跳躍となった。試技前の足合わせでは調子は悪くなかったが本番では足を合わせることに苦戦した。もっと助走のスピードを上げること、安定させること、ステップの強化が今後の課題である。

男子 砲丸投 決勝

1位 楠哲也(3) 13m35

この日は調子よく、全投擲で12m越えをマークした、4投目で一度逆転され2位になるも、その後の5投目に13m35の大幅な自己ベストを記録し、最終投擲では13m47でさらに記録を伸ばし優勝した。5投目からはスピードに乗ったグライドが見られた。

男子 円盤投 決勝

1位 楠哲也(3) 42m61

最終種目である円盤投げでは、体幹のひねり戻しが使えないため、ベスト8からは重心をずらした、ハンマーと同じような感覚で投げた。それがうまく決まったのか、5投目で自己ベストである42m61を記録し優勝した。

16位 野尻英史(3) 25m99

1投目はリリースがぶれ、力がうまくかからなかった。2, 3投目は記録を狙うためにターンの速度を上げて試技に臨んだが、安定せず、結果につながらなかった。今後はフォームの固定・安定化が課題である。



▲三連覇を果たした楠(3)の投擲

男子 ハンマー投 決勝

2位 野尻英史(3) 38m24

序盤から攻めた競技内容だった。1投目から3ターンで投擲を行い、ある程度の記録を残すことができたため、残りは記録を狙う投擲にすることができた。3投目で上体が前に傾いていたため、4投目以降で修正しようとしたが結果にはつながらなかった。結果

としては2投目がベスト記録となったが、後半は暑さのためか競技者全体の記録が伸びず、前半である程度の記録を残せたことが2位入賞の決め手となったと考えられる。



▲2位入賞した野尻(3)のハンマー投

男子 やり投 決勝

3位 楠哲也(3) 59m06

3投目で大学ベストとなる59m06を記録。3位だった。

13位 新出悠介(2) 48m45

1投目はリリースが早く、やりの角度がつきすぎて吹き上がってしまった。2投目はリリースを遅らせる意識をしたが、1投目同様吹き上がってしまった。3投目はクロスステップの時点でやりの角度を抑える意識をしたが、吹き上がってしまった。



▲集合写真

日付	種目	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位									
7月30日	男子100m 風:+0.1	澤 薫(4) 京都大	10.64	藤井 佳祐(4) 東北大	10.72	安藤 晃一(3) 京都大	10.86	橋本 太陽(4) 名古屋大	10.92	木下 将一(1) 大阪大	10.93	阿久津 大貴(2) 東京大	10.94	庄司 深(4) 京都大	10.94	山下 拓也(4) 名古屋大	10.97	
7月30日	男子200m 風:0.0	澤 薫(4) 京都大	21.57	長谷川 有希(4) 名古屋大	21.86	本司 澄空(3) 九州大	21.87	聲高 健吾(1) 東京大	21.92	久新 陽一郎(4) 北海道大	21.99	白鳥 海知(3) 東北大	22.25	安藤 晃一(3) 京都大	22.26	大衛 竜太(4) 京都大	22.27	
7月30日	男子400m	佐藤 弘樹(4) 大阪大	48.18	嶋田 健太郎(4) 名古屋大	48.32	志賀 凜(1) 大阪大	48.40	水戸部 慶彦(4) 東北大	48.67	小谷 哲(2) 京都大	48.80	小原 幹太(2) 京都大	49.39	平松 力(2) 大阪大	49.51	浅井 良(1) 京都大	49.70	
7月30日	男子800m	川口 航汰(3) 東北大	2:01.31	砂原 健汰(4) 名古屋大	2:01.92	安部 光騎(3) 名古屋大	2:01.92	佐藤 安夢(3) 大阪大	2:01.99	小畑 皓恭(3) 北海道大	2:02.13	土屋 雅智彦(2) 北海道大	2:02.71	小野 康介(2) 東京大	2:03.45	渡辺 社流(4) 大阪大	2:08.10	
7月30日	男子1500m	酒井 洋明(2) 北海道大	3:52.50	近藤 秀一(3) 東京大	3:55.14	吉岡 龍一(1) 九州大	3:57.44	清原 隆(1) 北海道大	3:57.55	荒田 啓輔(3) 北海道大	3:57.64	金剛 航平(2) 名古屋大	4:01.48	妹背 雄太(4) 東京大	4:04.21	河上 匠(3) 東京大	4:04.81	
7月30日	男子5000m	近藤 秀一(3) 東京大	14:43.72	酒井 洋明(2) 北海道大	14:55.51	尾崎 拓(4) 京都大	14:55.85	岩見 直弥(4) 九州大	14:58.63	竹鼻 大貴(3) 北海道大	15:04.90	柴田 裕平(4) 北海道大	15:05.51	阿部 飛雄馬(2) 東京大	15:08.07	松浦 崇之(2) 東京大	15:12.74	
7月30日	男子110mH(1.067m) 風:+1.0	真野 悠太郎(3) 名古屋大	14.34	岩瀬 崇(4) GR	14.46	本間 貴裕(4) =GR	14.58	手石 雅人(4) 名古屋大	14.76	田中 俊輔(2) 大阪大	14.81	小野 貴裕(2) 大阪大	15.03	上藤 寛(4) 東北大	15.13	田中 伸幸(4) 東北大	15.41	
7月30日	男子400mH(1.014m)	真野 悠太郎(3) 名古屋大	50.74	小田 将矢(4) GR	51.76	上野 和樹(4) GR	52.30	豊岐 晃平(4) 名古屋大	53.06	田里 康介(3) 大阪大	54.04	富樫 直斗(2) 北海道大	54.48	石坂 優人(4) 北海道大	55.51	加地 拓弥(1) 北海道大	55.65	
7月30日	男子3000mSC(0.914m)	櫻山 直生(2) 大阪大	9:21.01	立野 佑太(2) 東北大	9:24.04	土田 侑秀(3) 京都大	9:28.68	西 慶一郎(4) 大阪大	9:33.43	吉田 晃一郎(3) 大阪大	9:35.78	阿部 飛雄馬(2) 東京大	9:35.80	島田 潤(4) 北海道大	9:40.19	木村 秀(1) 東北大	9:42.00	
7月30日	男子5000mW	山西 利和(4) 京都大	20:20.05	中川 岳士(4) 北海道大	20:34.24	高野 圭太(3) 京都大	21:37.17	吉川 誠也(2) 大阪大	22:04.83	寺島 晋春(1) 東北大	22:13.92	佐伯 元春(4) 名古屋大	22:21.99	福江 敏(3) 東京大	22:25.37	及川 一真(3) 東北大	22:40.06	
7月30日	男子4×100mR	京都大学 加藤 寿昂(1) 安藤 晃一(3) 庄司 深(4) 澤 薫(4)	40.74 GR	京都大学 岩瀬 崇(4) 小田 将矢(4) 長谷川 有希(4) 山下 拓也(4)	41.10	大阪大学 加地 涼太郎(3) 佐藤 弘樹(4) 木下 将一(1) 藤本 唯司(3)	41.32	京都大学 井上 昂(1) 聲高 健吾(1) 野山 優輔(2) 宮内 陸輝(3)	41.52	九州大学 田上 優太(3) 本司 澄空(3) 西岡 幸(4) 宮内 陸輝(3)	41.53	北海道大学 渡辺 典仁(4) 久新 陽一郎(4) 山野 将明(4) 白石 直之(2)	41.87	東北大学 白鳥 海知(3) 芦田 周平(1) 大衛 竜太(4) 藤井 佳祐(4)	43.80			
7月30日	男子4×400mR	名古屋大学 嶋田 健太郎(4) 小田 将矢(4) 長谷川 有希(4) 真野 悠太郎(3)	3:14.61 GR	東北大学 白鳥 海知(3) 水戸部 慶彦(4) 羽根田 佑真(2) 岩波 颯彦(3)	3:15.95	京都大学 小谷 哲(2) 浅井 良(1) 加藤 陸至(4) 小原 幹太(2)	3:16.94	大阪大 志賀 凜(1) 河野 太郎(4) 兄井 啓太郎(4) 長久 将(4)	3:17.06	京都大学 小嶋 健太郎(3) 河野 太郎(4) 兄井 啓太郎(4) 長久 将(4)	3:17.45	九州大学 西岡 幸(4) 本司 澄空(3) 吉村 史(3) 豊岐 晃平(3)	3:19.10	北海道大学 山本 賢(2) 久新 陽一郎(4) 安部 晋吾(4) 小畑 皓恭(3)	3:22.78			
7月30日	男子走高跳	羽田 克来(1) 大阪大	2m04	山下 一也(3) 東北大	2m04	大賀 春輝(3) 大阪大	2m01	田中 祥平(4) 東北大	1m90	小山 航(2) 名古屋大	1m90	赤塚 晋弥(2) 東京大	1m90	津坂 涼太(4) 京都大	1m90	廣瀬 遼也(4) 名古屋大	1m90	
7月30日	男子棒高跳	三宅 功嗣(2) 東京大	4m80	杉山 翔馬(4) 北海道大	4m50	高橋 昇之(3) 東北大	4m50	生野 雄大(4) 大阪大	4m20	大曲 和輝(2) 大阪大	4m00	安部 晋吾(4) 北海道大	4m00	津坂 涼太(4) 京都大	4m00	澤 薫(4) 京都大	3m80	
7月30日	男子走幅跳	中谷 豪汰(3) 大阪大	7m41(+0.6)	角屋 壽基(3) 名古屋大	7m39(+1.3)	橋本 太陽(4) 名古屋大	7m31(+0.7)	木下 将一(1) 大阪大	7m28(-0.7)	伊藤 裕也(3) 名古屋大	7m17(+0.7)	木下 秀明(3) 京都大	7m04(+0.6)	葉原 伸也(1) 京都大	6m88(0.0)	高橋 昇之(3) 九州大	6m74(-0.1)	
7月30日	男子三段跳	中谷 豪汰(3) 大阪大	14m83(-0.2)	伊藤 裕也(3) 名古屋大	14m61(-0.2)	阪島 裕光(3) 名古屋大	14m45(+0.2)	木下 秀明(3) 東京大	14m42(-0.5)	平本 基人(3) 京都大	14m38(-0.3)	吉岡 利啓(3) 大阪大	14m34(+0.6)	三神 博志(2) 京都大	14m30(-0.3)	藤 悠里(3) 九州大	14m29(-0.1)	
7月30日	男子砲丸投(7.260kg)	綱 哲也(3) 東北大	13m47	赤坂 健太郎(4) 北海道大	12m65	深崎 晋介(1) 九州大	12m34	重吉 比呂(3) 大阪大	12m04	野村 球真(3) 大阪大	11m60	深谷 侑生(3) 名古屋大	11m47	土井 雅人(4) 東京大	11m33	佐竹 俊哉(3) 京都大	10m97	
7月30日	男子円盤投(2.000kg)	綱 哲也(3) 東北大	42m61	赤坂 健太郎(4) 北海道大	38m25	大嶋 悟(2) 京都大	37m70	西田 亮也(4) 九州大	35m07	諏訪 雄山(2) 大阪大	34m96	佐竹 俊哉(3) 東京大	34m17	多賀 敏介(3) 名古屋大	33m40	多賀 敏也(2) 京都大	32m36	
7月29日	男子ハンマー投(7.260kg)	浅野 晋司(4) 京都大	43m96	野尻 英史(3) 東北大	38m24	野村 球真(3) 大阪大	37m53	大嶋 悟(2) 京都大	37m06	野島 史好(4) 北海道大	36m79	横山 立(3) 北海道大	36m24	多賀 敏介(3) 名古屋大	33m14	加藤 仁仁(4) 東京大	31m89	
7月30日	男子やり投(8.000kg)	西田 亮也(4) 名古屋大	62m09	栗林 篤(3) 名古屋大	59m35	綱 哲也(3) 東北大	59m06	中山 聖吾(3) 京都大	56m31	浅野 晋司(4) 京都大	55m66	野村 球真(3) 名古屋大	54m11	加藤 教貴(3) 名古屋大	53m33	益谷 晋貴(3) 大阪大	51m85	
7月30日	男子総合	名古屋大	96.5点	大阪大	84点	京都大	71.5点	東北大	64.5点	北海道大	44点	東京大	34.5点	九州大	25点			
7月30日	男子トラック	名古屋大	59点	京都大	53点	大阪大	43点	東北大	32点	北海道大	25点	東京大	21点	九州大	19点			
7月30日	男子フィールド	大阪大	41点	名古屋大	37.5点	東北大	32.5点	北海道大	19点	京都大	18.5点	東京大	13.5点	九州大	6点			
7月30日	女子100m 風:+1.0	佐貴 有彩(2) 東北大	12.30	藤原 郁美(4) 大阪大	12.49	佐々木 千歳(3) 東北大	12.52	岡 愛美(4) 名古屋大	12.53	内山 咲良(2) 東京大	12.77	小野 萌子(3) 京都大	13.07	川崎 仁美(4) 京都大	13.20			
7月30日	女子400m	佐貴 有彩(2) 東北大	57.08	坪浦 諒子(4) 東京大	58.40	小野 萌子(3) 京都大	1:00.08	後藤 加奈(2) 名古屋大	1:00.80	長谷川 幹弥(2) 名古屋大	1:01.00	延安 英徳(1) 大阪大	1:03.05	西村 美生(3) 大阪大	1:03.25	谷口 水樹(2) 九州大	1:04.10	
7月30日	女子800m	高石 涼香(3) 東京大	2:11.89	野尻 真由(1) 大阪大	2:12.81	上條 麻奈(2) GR	2:13.65	上田 江里子(4) 北海道大	2:16.59	豊澤 みどり(3) 北海道大	2:18.82	岸本 絵理(4) 京都大	2:24.61	加藤 ひより(1) 東北大	2:24.67	成田 明日香(4) 名古屋大	2:27.29	
7月30日	女子3000m	高石 涼香(3) 東京大	10:15.39	三池 瑠衣(2) 大阪大	10:22.28	山下 奈央(4) 名古屋大	10:26.59	藤村 穂紀子(3) 九州大	10:28.96	岡本 萌巴美(4) 京都大	10:31.09	竹平 佳菜子(4) 北海道大	10:34.30	上田 江里子(4) 北海道大	10:40.32	増田 希也子(3) 京都大	10:40.67	
7月30日	女子4×100mR	東北大学 中村 真璃子(3) 佐貴 有彩(2) 吉村 栞(4) 佐々木 千歳(3)	48.57 GR	東北大学 山崎 真奈(2) 藤原 郁美(4) 野尻 真由(1) 今川 尚子(4)	49.66	名古屋大学 綱貝 萌々子(2) 吉田 有美香(2) 岡内 慶子(4) 岡 愛美(4)	50.58	京都大学 荒木 玲(3) 坪浦 諒子(4) 内山 咲良(2) 高石 涼香(3)	51.23	北海道大学 塚越 千弘(3) 尾崎 里帆(1) 大坂 桃子(2) 豊澤 みどり(3)	51.59	北海道大学 川崎 仁美(4) 小野 萌子(3) 後藤 加奈(2) 林 玲美(3)	51.80	九州大学 渡辺 千遥(2) 谷口 水樹(2) 岩本 法子(1) 齊木 円花(4)	53.73			
7月30日	女子走高跳	林 玲美(3) 京都大	1m66 GR	中村 真璃子(3) 東北大	1m58	塚越 千弘(1) 大阪大	1m55	1m50	1m45	大西 美佐歩(4) 名古屋大	1m45	大西 美佐歩(4) 名古屋大	1m45	熊屋 咲月(1) 東北大	1m40			
7月30日	女子走幅跳	内山 咲良(2) 東京大	5m55(+1.0)	野尻 真由(1) 大阪大	5m49(+1.9)	今川 尚子(4) 大阪大	5m38(-0.1)	岩本 法子(1) 九州大	5m34(0.0)	吉村 栞(4) 東北大	5m33(+0.5)	大西 美佐歩(4) 名古屋大	5m06(+0.5)	阿久根 清輝(4) 九州大	5m04(+0.1)	尾崎 里帆(1) 北海道大	5m00(+0.6)	
7月30日	女子砲丸投(4.000kg)	大西 美佐歩(4) 名古屋大	10m92	横山 優花(3) 京都大	10m48	綿谷 咲良(3) 北海道大	10m09	塚越 千弘(3) 北海道大	9m61	河内 慶子(4) 名古屋大	9m48	神代 結(3) 大阪大	8m70	福井 優輝(2) 京都大	8m33	坪浦 夏帆(2) 大阪大	8m21	
7月30日	女子総合	東北大	19点	大阪大	19点	東京大	16点	京都大	10点	北海道大	9点	北海道大	5点	九州大	2点			
7月30日	女子トラック	東北大	16点	東京大	12点	大阪大	12点	名古屋大	5点	北海道大	3点	北海道大/九州大	1点					
7月30日	女子フィールド	京都大	7点	大阪大	7点	東京大/名古屋大	4点	北海道大	4点	東北大	3点	九州大	1点					

凡例 GR:大会記録 +GR:大会タイ記録

◎応援に来てくださった先輩方(敬称略)

藤田文夫、佐藤健二、柴田清、遠藤久則、真山隆徳、村橋光臣、池田光司、彦坂幸毅、佐藤友彦、安井誠一郎、綿井傑、吉田真人、千葉雄司、柳川理介、斎藤健太、吉川雄朗、西川漠、畑山峻、八木洋光、田中裕志、藤澤鐘吾、柴田智弘、岩崎辰哉、新沼啓、望月明人、辻川優祐、岡崎和貴、奥裕之、田中悠貴、南共哉、下島千歩、田辺明、中山なつみ、石川遼、岡部大輝、酒井利晃、西井大樹、本間大輔、山田健太郎、田中直樹、朝比奈祐弥、大野慎也、梶山あずさ、後藤文子、榊原真璃子、佐々木優人、佐藤洋介、塩谷美菜子、高橋慧伍、竹原大、宮間志帆、吉田早智子、青木千景、卜部仁美、小幡卓哉、櫻井直輝、佐藤弘隆、佐藤文哉、佐藤雄也、須藤海、高橋拓実、田中翔悟、中西悠悦、本田雄生、吉田歩、渡邊朝美、李潔如

今年も多くのOB・OGの方々が応援に来て下さいました。全員のお名前を把握しきれず、掲載出来なかった方がいらっしゃいましたら申し訳ありません。また、たくさんの差し入れを頂き、多くの部員が助けられました。二日間、本当にありがとうございました。



◎東北大学の走高跳2mジャンパー達の記念写真(敬称略)

左から、山田健太郎(2m00:H27卒)、
遠藤久則(2m01、東北大初の2m:S55卒)、
田中祥平(2m03:4年生)、
山下一也(2m06:3年生)、
西川 漠(2m12:H18卒)、
彦坂幸毅(2m13:H2卒)。
(島村英貴(2m01:S63卒)が揃えば全員。)

◎宮城県陸上競技権選手権大会ほか

七大戦前にも各都道府県の国体予選で部員が活躍しています。入賞した選手を紹介します。

・宮城県選手権(7/8~9) …ひとめぼれスタジアム…

種目	氏名(学年)	順位	記録
男子 100m	藤井 佳祐(4)	6位	10"85(-0.5)
男子 800m	川口 航汰(3)	2位	1'58"38
	荒田 啓輔(3)	4位	1'59"11
男子 10000m	高橋 佳希(M2)	2位	31'58"91
男子 110mH	勝井 友樹(3)	5位	15"41(-2.0)
	羽根田 佑真(2)	6位	15"50(-2.0)
男子 400mH	羽根田 佑真(2)	4位	55"74
男子 4×100mR	白鳥(3)-芦田(1)-大衡(4)-藤井(4)	3位	41"76
男子走高跳	山下 一也(3)	3位	1m95
男子走幅跳	高橋 昇之(3)	4位	7m02(+0.4)
	藤井 佳祐(4)	5位	6m97(+1.1)
女子走幅跳	吉村 梢(4)	4位	5m40(+1.4)

・岩手県選手権(7/7~9) …北上総合運動公園陸上競技場…

種目	氏名(学年)	順位	記録
男子 100m	宮崎 幸辰(M1)	1位	10"45 (-0.2、GR)

・秋田県選手権(7/7~9) … (秋田)…

種目	氏名(学年)	順位	記録
女子 200m	佐貫 有彩(2)	1位	25"40 (+0.7)
女子 400m	佐貫 有彩(2)	2位	58"13

◎自己記録更新者一覧

- ・男子100m
白鳥海知(3) 11"01(+1.7)(東医体)
竹原大(M2) 11"17(+1.6)(仙台大競技会)
古川楓(3) 11"19(+1.6)(仙台大競技会)
田中智永(4) 11"35(+0.9)(仙台大競技会)
- ・女子100m
佐貫有彩(2) 12"30(+1.0)(七大戦)
- ・男子200m
白鳥海知(3) 22"03 (+0.6) (東医体)
- ・男子400m
川島啓(1) 51"72(七大戦)
田口開斗(1) 51"73(仙台大競技会)
- ・女子400m
柄澤菜々美(1) 1'08"46(七大戦)
- ・男子800m
川島啓(1) 2'01"56(仙台大競技会)
千葉智史(4) 2'04"67(仙台大競技会)
- ・女子800m
上條麻奈(2) 2'13"65(七大戦)
- ・男子5000m
藤原啓(4) 16'10"15(仙台大競技会)
臼井駿斗(1) 17'21"07(七大戦)
- ・男子110mH
羽根田佑真(2) 15"34(+0.3)(七大戦)
- ・男子400mH
羽根田佑真(2) 55"44(七大戦)
- ・男子5000mW
森渉(4) 23'31"76(七大戦)
- ・男子棒高跳
赤星栄治(1) 3m60(七大戦)
- ・女子走幅跳
吉村梢(4) 5m40(+1.4)(宮城県選)
門脇郁(2) 4m78(-0.8) (七大戦)
- ・男子やり投
新出悠介(2) 48m45(七大戦)
- ・男子ハンマー投
新出悠介(2) 28m47(七大戦)

◎今後の予定

- ・9月8~10日 全日本インカレ …福井運動公園陸上競技場(福井)
- ・9月14日 全日・全女駅伝東北地区選考会 …北上総合運動公園陸上競技場(岩手)
- ・9月15~17日 国公立26大学対校戦 …正田醤油スタジアム群馬(群馬)
- ・9月23~25日 東北学生陸上競技選手権大会 …仙台市陸上競技場(宮城)
- ・9月30日 OB・OG戦 …評定河原グラウンド
- ・10月9日 出雲全日本大学選抜駅伝競走 …出雲市(島根)

◎編集後記

七大戦では、女子は悲願の初優勝を達成することができました。この良い雰囲気の中、長距離パートは全日・全女選考会を目標に、他パートは26大戦等の各種大会に向けて練習に励んでいます。主将・松田将大、女子主将・中村真璃子のもと、新たな体制で戦っていく東北大選手たちの活躍にご期待ください。 文責 副務 阿部春花

東北大学陸上競技部三秀会

〒980-0815 仙台市青葉区花壇2-1

東北大学評定河原グラウンド内

hukumu_tohoku_ob2sin@yahoo.co.jp